

文教警察委員会会議記録

文教警察委員長 元吉 俊博

1 日 時

平成29年9月8日（金） 午前10時49分から
午前11時34分まで

2 場 所

第2委員会室

3 出席した委員の氏名

元吉俊博、吉富英三郎、森誠一、鴛海豊、阿部英仁、藤田正道、馬場林

4 欠席した委員の氏名

なし

5 出席した委員外議員の氏名

なし

6 出席した執行部関係者の職・氏名

教育長 工藤利明 ほか関係者

7 会議に付した事件の件名

別紙次第のとおり

8 会議の概要及び結果

- (1) 九州北部豪雨災害復旧・復興推進計画について及び「九州北部豪雨災害に係る重要な緊急課題に対する要望・提言」に対する対応状況等について、執行部から報告を受けた。

9 その他必要な事項

なし

10 担当書記

議事課委員会班 主任 木付浩介
政策調査課調査広報班 主査 後藤仁美

文教警察委員会次第

日時：平成29年9月8日（金）本会議終了後

場所：第2委員会室

1 開 会

2 教育委員会関係

- (1) 九州北部豪雨災害復旧・復興推進計画について
- (2) 「九州北部豪雨災害に係る重要な緊急課題に対する要望・提言」に対する対応状況等について
- (3) その他

3 閉 会

会議の概要及び結果

元吉委員長 ただ今から文教警察委員会を開きます。

執行部の皆さんは、行事等がある中お集まりいただき、ありがとうございます。

また、九州北部豪雨から約2か月がたちましたが、発災直後からこれまでの対応に心から感謝申し上げます。

さて、その豪雨災害については、先般、県の復旧・復興推進計画が発表され、また、本日の本会議に、復旧・復興に向けた補正予算が上程されました。

本日の委員会では、策定された復旧・復興推進計画及び8月3日付けで議会から提出させていただいた緊急課題に対する要望・提言に対する取組状況の説明を求めたいと思います。

それでは、次第の(1)と(2)を一括してお願いします。

工藤教育長 ひとこと御挨拶を申し上げます。

元吉委員長を始め、委員の皆さま方には常日頃から教育行政の振興にいろいろと御助言、御指導いただいております。この場をお借りいたしまして改めて感謝を申し上げます。

本日の委員会では、去る7月の北部豪雨災害の復旧・復興推進計画、また、議会から提出いただきました重要な緊急課題に対する要望・提言についての現状・今後の取組方針などについて説明、報告申し上げたいと思います。

各事項につきましては、それぞれ担当課室長から説明申し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。

能見教育改革・企画課長 それでは、平成29年7月九州北部豪雨災害「復旧・復興推進計画」について御報告いたします。

お手元の復旧・復興推進計画を1枚おめくりいただきまして、目次のページを御覧いただきたいと思っております。

7月5日に発生した九州北部豪雨の復旧・復興に向けて、大分県水害対策会議を立ち上げ、度々被災市と意見交換を行い、被災現場の状況把握に努めてきたところでございます。このように被災市と連携し、また現場に応じた具体的な取組を復旧・復興推進計画として取りまとめたところでございます。

それでは、このうち教育委員会に係る部分について御報告いたします。

13ページをお開きください。

教育施設・文化財等の復旧・復興について御説明いたします。

まず、1の学校施設・教育の復旧・復興について御説明いたします。

学校施設において大きな被害を受けたものは、県立学校が1校、市町村立学校が小学校1校、中学校1校の2校であります。

県立学校では日田林工高校の演習林において土砂流出等の被害が発生しております。演習林までの林道においても橋りょう流失等の被害があり、その復旧後に対応する予定としております。

演習林では下刈り実習等が予定されておりましたが、5年前の災害時の対応を参考として、日田市などと協議し、代替場所を確保し、授業を行うことができるようにしております。

市町村立学校は日田市立小野小学校と大明小中学校です。なお、大明小中学校は施設一体型の小中一貫校でありますけれども、ここでは中学校として分類しております。小野小学校の被災状況は委員の皆様にご視察いただいた際に御説明があったと思っておりますけれども、床下浸水や受電用機器の浸水による停電等の被害が発生しました。現在、その復旧に取り組んでおり、今月中に復旧する予定となっております。大明小中学校につきましては、グラウンドへ流木や土砂が堆積する被害が発生いたしました。その除去作業は8月24日に

完了したところでございます。

次に、被災した児童生徒への支援につきましては、まず心のケアとして、スクールカウンセラーを小学校6校、中学校2校の8校へ延べ14名を派遣し、215名の児童生徒に対するカウンセリングを行っております。

また、今回の災害で教科書、学用品をなくした児童生徒がおりましたので、それぞれ給付しております。これについては7月補正で対応したところでございます。

その他としましては、被災により、日田市立小野小学校と戸山中学校が1学期の終業式及び2学期の始業式を早めております。また、戸山中学校では、夏休み期間中に授業日を設定し、授業時数の確保を行っております。

JR日田彦山線の一部が不通になりましたので、JR九州による代行バスの運行が開始されるまでの間、沿線の高校生に対する緊急の通学支援として、ジャンボタクシー等を借り上げ、7月12日から28日までの平日12日間、延べ44台運行いたしました。対象者は日田市内の高校に通う生徒25名で、期間中延べ248名が利用したところでございます。当該支援に係る経費は被災生徒の就学の機会を速やかに確保するため、既決の予算で対応したところでございます。

次に、2の社会教育施設・文化財の復旧について御説明いたします。

社会教育施設につきましては、日田市の西有田公民館で駐車場の舗装が一部流出し、複合文化施設A O S E（アオーゼ）では一部床上浸水の被害がございました。体育施設につきましては、財津町スポーツ広場のグラウンドに流木や土砂が堆積する被害が発生したところでございます。社会教育施設は10月までに、体育施設は今年度中に復旧予定となっております。

次の14ページをお開きください。

文化財につきましては、国指定文化財が11件、国登録文化財が4件、県指定文化財が2件被災しました。それぞれについて、関係機関や所有者と調整し、早期復旧に努めます。

特に国重要文化的景観「小鹿田焼の里」で被災した窯などの文化財については、国庫補助を活用し、復旧に向けた支援を行うこととしております。当該予算は本日提案させていただいた9月補正予算案に計上しております。

教育委員会に係る部分は以上でございます。

今後は、この計画に基づき、関係部署が連携するとともに、国や被災市と協力して、迅速な復旧・復興に向けた取組を着実に推進してまいります。

また、今回策定した計画内容については、今後の復旧状況に応じて随時見直すとともに、大分県水害対策会議が進捗管理を行うこととしており、この計画に基づき、国や被災市町と協力して、迅速な復旧・復興に向けた取組を着実に推進してまいります。

宗岡学校安全・安心支援課長 次に、文教警察委員会から御提出いただいた緊急課題に対する要望・提言について、項目別に御説明いたします。

まず、児童生徒に対する支援について、心のケア及び通学支援のこれまでの取組状況について御説明します。

心のケアにつきましては、日田市教育委員会からの要請を受けまして、7月11日から19日までの5日間で延べ14名のスクールカウンセラーを緊急派遣し、小学校6校と中学校2校で計215名の児童生徒のカウンセリングを実施しました。

避難児童生徒の通学につきましては、8月7日付けで各市町村教育委員会あてに区域外就学制度の活用についての通知を発出し、保護者の申立てにより区域外就学が可能である旨を示したところでございます。

児童生徒の状況としましては、小野小学校の児童が8月25日付けで市内小学校に転校したケースがあります。また、大明小学校の児童で、現在区域外から通学している児童が11月に市内の小学校へ転校する予定との情報も得ております。豪雨被害により本来の自宅から通学ができない児童生徒は8月末現在

で16名、そのうち区域外からの通学となっている児童生徒は12名となっております。

今後の取組方針を御説明します。

心のケアにつきましては、今後のケアが必要と考えられる児童生徒は、学校と連携して児童生徒の変化を注視するとともに、必要に応じてスクールカウンセラーがカウンセリングを実施することとしております。

通学支援につきましては、区域外就学等の制度活用により、児童生徒、保護者が望む形の支援となるよう、市町村教育委員会と連携して取り組んでまいります。

続きまして、地域の避難拠点となる学校への物資備蓄・環境整備について、これまでの取組状況を御説明します。

現在、市町村立学校で指定避難所となっている校数は全393校中333校で、備蓄物資のある校数は、このうち112校となっております。また、県立学校で指定避難所となっている校数は57校中31校で、備蓄物資のある校数は10校となっております。

今後の取組方針としまして、県では、昨年度、災害時備蓄物資等に関する基本方針を作成し、県及び市の具体的備蓄目標量を定め、適切な備蓄に努めることとしております。備蓄場所については、分散備蓄を基本としていますが、市町村の判断により、地域の実情に応じて避難所やその他の備蓄倉庫に保管することとしております。特に日田市では、今回の被災状況を踏まえ、孤立した小野地区の指定避難所である小野小学校への飲料、食料等の備蓄を早急を実施する予定としております。

県教育委員会としましては、市町村が避難所として指定した小中学校のうち、過去に災害が頻発し、また、地形上発生が予想される地域にある学校に、物資の備蓄や生活用品等の早期供給が可能となる体制整備を関係部局と連携して検討するよう市町村教育委員会へ要請してまいります。また、県立学校の備蓄につきましても、関係部局と協力し、関係市と協議したいと考えております。

佐藤文化課長 続きまして、文化財の早期復

旧に向けた支援について、これまでの取組状況を御説明します。

小鹿田焼につきましては、8月7日から8日に文化庁の担当者2名が来県し、県教育委員会、日田市教育委員会の担当者とともに調査並びに復旧に向けた協議を実施いたしました。また、小鹿田焼の復旧に向けて、商工労働部や西部振興局、日田土木事務所と連携して支援を検討しているところでございます。

また小鹿田焼以外の文化財の被災状況ですが、主なものとしまして、国指定文化財の日田市豆田町重要伝統的建造物群保存地区、史跡廣瀬淡窓旧宅及び墓、重要文化財草野家住宅など5件が床下浸水等により汚泥等が堆積する被害が発生いたしました。うち4件については、ボランティアの御協力などにより汚泥等の堆積物の除去が完了しています。残りの1件、行徳家住宅につきましては、日田市が今後除去を予定しているところです。次に史跡ガランドヤ古墳では、整備盛土が崩落したため、既決事業費を組み替えて復旧に着手しております。また名勝耶馬溪の山国川筋の景等で発生した多数の護岸破損等については、中津市と中津土木事務所が復旧に着手しているところです。

県指定文化財では、史跡石坂石畳道で発生したのり面の崩落について、日田市が再整備に着手しています。

なお、小鹿田焼に関する今後の取組方針としましては、唐臼につきましては、小鹿田焼の陶芸活動の根幹を成すものであることから、文化庁の既決事業費を組み替えて対応するよう予定しております。土掛け窯と土蔵につきましては、小鹿田焼の里の重要な構成要素であるため、文化庁の事業を災害復旧事業として新規に要求する予定としております。なお、文化財とはなっていない鉢臼や唐臼小屋等につきましては、商工労働部や企画振興部の事業を活用して復旧支援するよう予定しております。

姫野高校教育課長 続きまして、JR久大本線・日田彦山線の復旧等について、これまで

の取組状況を御説明します。

J R 久大本線及び日田彦山線につきましては、県から国及びJ R九州に対して早期運行再開を要望した結果、久大本線については、平成30年夏までに復旧予定と発表があったところでございます。

県教育委員会では日田彦山線の運休に伴い、延べ44台のジャンボタクシー等を借りました。7月12日から28日までの12日間で、延べ248名の生徒が利用しております。

現在は、J R九州が代替輸送を確保したことに伴い、日田市内県立高校3校の通学に支障はございません。

今後の取組方針としましては、引き続き関係部局と連携してJ R九州等へ早期復旧についての要望を行う予定としております。

元吉委員長 ありがとうございます。

説明は終わりましたが、委員の皆さんから質疑・御意見等ございませんか。

阿部委員 たくさんあると思うんですが、私から一つだけちょっとお聞きしたいんですが。

今回の日田、中津の水害で学校施設が避難所――さっき説明で小野地区の学校がということがあったんですが、今回はどういう状況だったんですか。ちょうど夏休みの期間に入っていたのかなと思うんですが、何件ぐらい学校施設を避難所としたのか、それともなかったのか、それから期間的にはどうであったのか、そこをまず最初に教えてもらえないですか。

能見教育改革・企画課長 まず、日田市におきましては、豪雨災害が発生しまして、7月6日が一番避難者数が多かったわけですが、その7月6日で申しますと、学校施設で避難所になりましたのが16校で、509名の方が避難していたという状況です。そのうち、県立学校は日田林工高校の1校で、42名の方が避難されました。日田市の学校施設で最も長く避難所が開設されておりましたのが、大明小中学校ですけれども、8月10日までに閉鎖されています。

それから、中津市につきましては、同じく7月6日が最も避難者数が多かったわけですが、計4校の小中学校に140名の方が避難されていたということでございまして、三郷小学校が最も長く開設されておりましたけれども、7月8日までに閉鎖をされております。

阿部委員 夏休み期間とちょっとダブリがあったわけですね。言わんとするのは、今の文章にありましたように、学校施設は、避難所という位置付けで造られているわけではなく、やはり子どもたちの教育機関、教育施設として造られているわけですね。しかし、こういう災害が、突発的なことが起これば、安全な地域ということで避難所の設定に、これは予期せぬことなんでね、最初からそういうことを前提にはしていないとは思いますが、ただ、先ほど最後の方に地形上災害が予想される地域と、また日田には5年前に一度水害もありましたし、そうなったときに、やはりこの地域はよくそういう災害で避難場所になる、昨日の雨みたいに気象変動でどんどんなってくると、そういうことを予想しておかなきゃならないような事態に今なってきたのではないかなと思うんですね。

そうしたときに、やはり先ほど備蓄ということがありました。これは当然すべきことですが、避難する人たちが急に集まってくる、そういうときにやはり避難者に対しての環境整備も考えていかなきゃならないと思うんですね。今日のテーマは、生徒にどういう影響を与えたかということで、一つには、学校施設で避難者がずっと1か月も2か月も長期化したときにはその施設が使えなくなるわけですから、ここのところは子どもたちの教育施設としての影響が出てくるわけですし、子どもたちは身近に避難者と接しなきゃならんわけですから、いい点もあるかもしれませんが、マイナス面も出てくると思うんです。そういうことも想定して考えなきゃならん。そしてもう一つは、やはり避難所になった教育施設を、避難者に対しての配慮というのでも考えて

いかなきゃならんと思うんですよね。特に、我々もよく耳にするのは、トイレの問題ですよ。例えば、避難用に体育館のトイレを造っているわけではないので、ところが、そこに何百人も入ったら、もうトイレが使えなくなる。そうすると、学校施設の教室のトイレ、各階にもあるとすれば、そういうトイレまで開放せざるを得んと思うんですよね。そういうところも想定されておられるのかどうか。

やはり今後は他の部局、災害担当ですから生活環境部じゃないかと思うんですが、そういうところとも横断的に話をしながら、避難施設になるところにはやはりトイレの施設の増設とか、そういうところも併せて要求をしていく必要があるんじゃないかなという思いがするんですが、この2点についてはどうでしょうかね。

どうですかと言ったって、今答えられることじゃないと思いますので、そういうこともできれば念頭に置きながら、今後の展開も考えていただきたいなという要望でもう結構です。

森崎教育財務課長 避難所につきましては、委員の言われるとおり、一気に来たりします。市が簡易トイレを用意したりとか、基本的にはそういう運営をしていくという形にはなるんですけれども、我々としても、例えば避難階段を造ったりとか、できるだけ避難所になるところについては、そういう設備を設けるというような形にはしています。今後とも整備していきたいと思います。

阿部委員 そういうところも併せて、要望としておきます。

工藤教育長 今、委員からは今回、それから昨年の地震もありましたし、5年前もまた同じような水害があったということで、今の御要望の趣旨としては、教育施設と避難所機能と、これは両立する形をきちっと造っていく必要があるんじゃないかという御指摘だと思うんですけれども、確かにその点が大きな課題になると思います。

例えば、今回の小野地区について言うと、

それでもう全て安心という状況にはならないわけですね。今回の水害のときに、逆に小学校に固まってしまうと危険という事態もあり得るわけで、かといって、あの地区に他に安全な場所を設けるのは難しいというような、いろんな状況がございますので、そういったところも含めて、主には市町村の学校が避難所にたくさんなるわけですけれども、そこら辺についても、もう一度学校の安全・安心と避難所としての機能等をどう調整していくかということは、市の教育委員会も含めてきちんと整理をしていく必要があるというのは今回我々も考えたところでありまして、今、森崎課長が言いましたけれども、県立学校においてまた必要なものがあれば、その点についても関係部局とよく話をしていきたいと思っていますところでもあります。

阿部委員 ややもすると、すぐ思い付く場所に来てしまうという嫌いはずっとあるんで、それはそれでやむを得ないんでしょうけど、もう一方で、ここの部局じゃないですけど、やはりそういう公民館の位置付けだとか、公民館の設備とか、そういうところであれば、学校施設、教育施設とは別に、やはり避難という前提で物を考えられる部分が強いと思います。そういうところは当然進めていかなきゃならんと思いますが、学校施設も当然出てくる対象地域や対象施設になりますので、これはどこで起こるか分かりませんが、よろしくお願いします。

馬場委員 関連して、2ページのところで物資の備蓄や生活用品等は早期に供給できる体制整備を関係部局と協議すると。私も7月6日の朝、山国にちょうど伺ったときに、三郷小学校のところの国道212号がやられて、そしてかなり夜降って、5日は、あの辺りは車が通行できない、ストップが掛かっている、あそこを通る方が学校に避難されてきているようなこともありました。かなりたくさん来られていたので、物資を運ぶということがなかなか足りなくて、ただ、中津日田道路ができていたので、本所とはそこで通れていたみ

たいなんですけれども、5年前もありましたし、学校の中では避難所として指定されている学校、されていない学校あると思うんですけれども、ある程度、今までかなり避難所として多くの方が来たような学校などについて、ある一定程度の備蓄を学校自体でもしておくということが必要かなと思うんです。近くにあればいいんですけど、かなりその学校から遠いところから運んでくるとなると、運ぶ道路が寸断されたり、できないような場合も考えられるので、ある一定の量を学校でも備蓄をした方がいいのかなと思うんですけど、ここは供給できる体制ということを書かれているんですけど、それはある一定運んでくるということをイメージしているのかなと思うんです。その辺はまた、要望なんですけど、防災の部局との連携も含めてした方がいいのかなと思いましたが、いかがですか。

宗岡学校安全・安心支援課長 今、委員おっしゃるとおりでありまして、市町村が学校に備蓄している数としては把握しているんですけれども、市町村と協議をして、公立の学校の備蓄品まで把握していないんですが、ここで書いているのは、過去に水害が多かった、発生したところに対する最低限の備蓄品、それも市町村と協議しながら、防災部局と協議しながら置いていただきたいということと、つまり道が通れなくなったときには供給できないということもありますので、そこら辺のところを協議していきたいと。

市町村についてはハザードマップで災害が予測される学校を把握しているんですけれども、ただ、今回の水害で市町村においてはハザードマップも見直すということもありますので、そこら辺も含めまして、市町村と学校の立地条件を含めて協議していきたいと思えます。

森委員 この前調査させていただいたときに、学校で話に出たのが、やっぱり日田も暑いところであるので、避難したときとにかく体育館が暑かったと。冷房があるのは2階以上の部屋で、そこに皆さんで体調の悪い方とか

高齢の方を抱えていったとかいうようなお話も聞きました。今回の要望・提言の中に、備蓄の話も出ましたけれども、冷暖房設備や防災備蓄用畳等が早期に供給される体制整備をとということも示しているんですが、説明の中では、反映状況等には説明がなかったので、今後どういった方向で考えられているのかを教えていただければと思います。

森崎教育財務課長 高校の場合は、日田林工が今回避難所になりました。日田林工の場合、やはり体育館だったので暑いということで、スポットクーラーと言いまして、本当に持ち運びができるクーラー、それを5、6台入れて冷やしたというような状況でございます。それは市が避難所の運営という中で入れるという形になりましたので、できるだけそういうものを使いながら、暑いときは冷やしていくという形を取っていきたいと思っております。

森委員 そのスポットクーラーがほとんどきかなかったというのが現場の状況だったようですので、その辺を今回の提言の中にも入れているので、現状をきちんと把握していただければと思います。

藤田委員 4ページにありますJRの不通区間の代行バスの件なんですけれども、現状、新学期も始まりましたけれども、実際にこの3校に代替バスを使って通学されている生徒が何名おられるのか、若しくは保護者の方が送迎をしているケースとか、若しくは引っ越しているケースとか、いろいろ想定されるんですけれども、現状どのようになっているのかというのを把握されていればお教えいただきたいです。

姫野高校教育課長 今、日田彦山線の代替バスの件で、東峰村から16名の子が利用して通っております。併せて、夜明の子どもたちについても、正式には、そこの代行バスを使ってというのは今現在は把握しておりませんが、合わせて30人近い生徒が利用しておる状況であります。逆に、日田駅からバスを使う日田三隈の生徒たちが約40名いる

という状況で、そういった子どもたちに対して、また引き続き、見ていきたいと考えているところです。

藤田委員 要望・提言の中で、バス代行輸送になった関係で、部活ができないとか、親が送らなければいけないとか、そういうこともあるので、実態を踏まえた上でダイヤ改善についてJRに要請をしてほしいという内容が盛り込まれているんですけども、今後の取組方針で、早期復旧についての要望しか上がっていないんですけども、8月ということになると、来年度の新入生も対象になってくるので、できれば実態を見ながら、その辺のバス路線のダイヤについても要望していく必要があるんじゃないかと考えるんですけども、いかがでしょうか。

姫野高校教育課長 バスの対応につきましては、関係部局からJR九州等と連携を取りまして、特に日田三隈が日田駅からバスというところで始業時間等の課題はございますが、現在については、これについても解消できている状況となっております。引き続き、生徒たちの状況については、私たちも見ていきたいと思っております。

元吉委員長 ちょっと教育長に是非お願いしたいんですけど、今、森委員から話が出ました冷房、エアコンの件ですけど、この前伺った小学校も二つのエアコンのある部屋に避難させたということなんですけど、例えば、体育館に避難した場合に何がストレスかというところ、やっぱり蒸し暑さ、これが最高の避難者のストレスだと思うんですよ。財政も厳しいとか、予算も掛かるでしょうけど、移動式のエアコンというのがあると思うんですよ。そういうのを是非、部局全体で話していただいて、県で保管すると。そういうときに持って行けるように、やっぱり特に豪雨災害は暑い時期がほとんどなんで、食料がないよりも何よりつらいのは、やっぱり暑さだと思います。そういった意味で、ストレスが一番たまるという原因にもなりますので、そこは何とか早々一遍に5か所も10か所も災害という

のではないと思うんですけど、体育館全体じゃなくてもある程度冷やせるというような移動式の冷房機というのを是非、県でそろえていただいたらいいんじゃないかなと思います。

もしそういうのがあれば、災害じゃなくても体育館で何かするとき、要るときにも使えますし、是非そこら辺は考えていただかないと、たまたま少人数で教室に避難できたからいいと思うんですけど、夏に体育館へ避難するというのは地獄のような状況だと思います。寒い分は着ればいいんですけど、暑い分はどうしようもならないので、是非検討いただきたいということを要望しておきたいと思っております。

吉富副委員長 心のケアについてのことなんですけど、お父さんが亡くなったというお子さんもいましたし、災害に対して子どもたちの心のケアがどうなっているかということは今、その中での答えでは生徒指導員等で対応するというようになってはいますけれども、今現在、どのような情報が入っているのかだけをちょっと教えてもらいたんですけど。

宗岡学校安全・安心支援課長 現在でありますけれども、実は災害が起こりまして、カウンセリングを先ほど言った回数行ってきました。8月8日にカウンセリングを行ってきた記録と、それとカウンセラーさんの意見を聞いて、18名の児童生徒が継続してカウンセリングが必要であるということ判断しました。

その子どもさんにつきましては、一定期間置いて、始業式の日再度カウンセリングを行うということでお訪ねをしましたが、現状、心身、体調に、その時点では重篤あるいは問題があるというお子さんはいないという判断をしています。

ただ、今後、委員の皆さん方の御指摘のように、期間がたった後にまた不安になるということもあると思いますので、学校配備のスクールカウンセラー、あるいは本課にいる臨床心理士、あるいは日田市が2名雇用していますカウンセラーとも連携しながら、すぐにカウンセリングできる体制を整えています。

それと、もう一つは定期的に心のアンケートを日田市内の全ての子どもたちに取りようにということで、日田市教育委員会にお願いをしています。それを基にして、変調があった子どもにつきましてカウンセリングしようという、そういった心理カウンセリングでございます。

吉富副委員長 7月5日にあった大災害から一月以上、二月たっているんですけども、その間にも頻繁に小野地区とかは大雨の避難指示というのが相当出ているんですね。ですから、その度に子どもたちの心がどうなっているのかというようなものが心配になったものでお伺いしたんですけども、そういう部分に対してはどのような答えが返ってきていますか。

宗岡学校安全・安心支援課長 子どもにカウンセリングした回答の中で、雨を見るとあのときを思い出すというようなこと、それから寝付きが悪いとか、すぐ目が覚めてしまうといったことも聞き取りでありますので、そういうところの子どもたちにはしっかり対応していく。現状、学校配備のカウンセラー、あるいは日田市でスーパーバイザーとって、機動的に動けるカウンセラーがおりますので、これを使ってやっていくということで確認しています。

元吉委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

元吉委員長 ほかに御質疑等もないので、これもちまして本日の委員会を終わります。

お疲れさまでした。